

100周年記念事業コンセプト

『変わる産業 変わらない使命』策定を振り返って



都産技研は、2021年に設立100周年を迎えます。この100年という節目を都産技研の未来を考え、より良くするためのチャンスととらえ、所内外向けにさまざまな記念事業を計画しています。今回は、この記念事業の柱となるコンセプトの策定までの道のりを理事長と設立100周年記念事業プロジェクト（通称100プロ）統括実行委員会のメンバーが振り返りました。

100周年を一過性のイベントにしないために

100周年記念事業の準備を始めるにあたり、まずは組織横断的に職員を集め、2019年5月に実行委員会を発足しました。自由にアイデアを出し合う中で、各メンバーに共通していたのが、この事業を、100周年を祝うだけの一過性のイベントにするのではなく、「次の100年のために都産技研をより良い方向へ変革する好機にしたい」という想いでした。

そのためには、職員一人一人が協力して一丸となり100周



年を盛り上げていくことが大切だと考え、事業の柱となるコンセプトを策定し、職員と共有することから記念事業をスタートすることにしました。

変わる産業 変わらない使命

コンセプトメイキングにあたって、記念事業全体を通じてどのステークホルダーに、どのようなメッセージを発信し、それによりどう都産技研を変えていきたいのかをメンバーで繰り返し話し合いました。その中でヒントとなったのが、都産技研の前身である府立東京商工奨励館の開所を伝える当時の新聞記事です。見出しには「府下商工業者の親切的相談相手」と書かれており、私たちの使命は設立当初から変わっていないことに気づかされました。職員一人一人がこの原点に立ち返り、自分たちの使命を再認識する必要があると強く感じました。

その一方で、激しく変化し続ける産業にも目を向けました。第1次産業革命では水力・蒸気による動力を獲得して大量生産と輸送の高速化、第2次産業革命では石油と電力を活用し

て動力を革新しました。第3次産業革命ではコンピューターを活用した自動化が実現され、現在の第4次産業革命では情報通信技術、ビッグデータ、AIを活用したモノの自律化を目指した取り組みが進められています。このように猛スピードで変化を続ける産業に対応するために、都産技研も進化しながら、お客さまの支援を続けることが求められています。

振り返れば私たち都産技研は、100年にわたり、時代とともに変わる産業を、職員の変わらない使命で支えてきました。今までも、そしてこれからも、この使命を胸に「頼りになる都産技研」であり続けたいと考えています。この想いを、設立100周年記念事業のコンセプト「変わる産業 変わらない使命」の言葉に込めました。

職員一丸となって盛り上げる100周年

現在100プロでは、5つのワーキンググループを立ち上げて、コンセプトを軸にさまざまな企画を進めています。その一つが、100周年を記念したロゴマークの作成です。コンセプトを表現するロゴマークを職員から公募し、33点のデザイン案が集まりました(右図)。

今後、職員投票により決定し、100周年記念事業をさらに盛り上げるべく、このロゴマークをさまざまなPRに活用していきます。併せて、今後の都産技研の方向性を示す2050ビジョンの策定を進めています。加速度的に変化する産業に対



100周年記念ロゴデザイン案一覧


し、これからの都産技研はどうあるべきかを若手職員を中心に議論し、つくり上げている最中です。

このほかにも、過去の貴重な資料を整理し、100周年の歩みをまとめた記念誌の作成をはじめ、イベント開催や特設ウェブサイトによる情報発信、動画の作成なども計画しています。こうした100周年記念事業に職員が一丸となって取り組み、未来に向けて進化する機会にしたいと考えています。



奥村理事長とともに（設立100周年記念事業プロジェクト統括実行委員会メンバー）

都産技研の歴史

											
1921年	1924年	1927年	1959年	1970年	1997年	2000年	2006年	2010年	2011年	2015年	2021年
府立東京商工奨励館（前身）	東京市電気研究所（前身）	東京府立染織試験場の前身	東京都立工業技術センター（東京都立工業奨励館と東京都電気研究所を統合）	東京都立産業技術研究所（東京都立工業技術センターと東京都立工業奨励館を統合）	東京都立産業技術研究所（東京都立工業技術センターと東京都立工業奨励館を統合）	東京都立繊維工業試験場を統合	東京都立繊維工業試験場を統合	東京都立繊維工業試験場を統合	東京都立繊維工業試験場を統合	東京都立繊維工業試験場を統合	東京都立繊維工業試験場を統合